

内閣総理大臣 菅 義偉 様

要 望 書

日本キリスト教婦人矯風会は、創立 134 年の長い歴史をもつ女性団体であり、日本国憲法の理念の実現と女性の人権と福祉の推進を目標に掲げて活動してきました。

去る 9 月、菅義偉内閣総理大臣は、日本学術会議が新会員に推薦した 105 名のうち、人文・社会系の 6 名を任命せず、またその理由も明らかにしなかったという報道がなされました。それに対して、日本学術会議より「第 25 期新規会員任命に関する要望書」(2020 年 10 月 2 日)が菅内閣総理大臣宛に出され、その中で任命されない理由の明示と速やかな任命の 2 点が求められている旨が明らかとなりました。

以来 3 か月になりますが未だに菅総理は説明責任を果たしていません。記者会見でも、国会答弁でも、学術会議のあり方を「総合的、俯瞰的に見直す必要がある」と論点をずらし、国民がいちばん知りたい「なぜこの 6 人か」について明らかにしないまま、学術会議の組織改編について方向性を出す意向を示しています。しかし、改編は別問題であり、必要であれば学術会議が主体的に考えるべきことであります。

2020 年 12 月 16 日に日本学術会議は、その在り方に関する中間報告書を政府に提出し、現行の組織形態は国を代表する学術団体「ナショナルアカデミー」に必要な要件をすべて満たすとし、政府からの独立も含め独立行政法人等他の設置形態への移行が可能かどうかは明言を避けました。

当会は、今回の学術会議問題が日本国憲法の保障する学問の自由、思想および良心の自由を侵害しかねない問題をはらんでいることに深い憂慮の念を抱いています。当会は「日本学術会議発足にあたって科学者としての決意表明」の基本的精神を共有し、日本学術会議が、日本学術会議法前文に定められた「科学が文化国家の基礎であるという確信に立つて、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命」(原文ママ)とする日本の重要な機関であることを確信し、ここに以下 3 点を要望します。

記

1. 学術会議が推薦した会員候補者 6 名が任命されない理由を説明していただきたい。
1. 2020 年 8 月 31 日付で推薦された会員候補者のうち、任命されていない 6 名について、速やかに任命していただきたい。
1. 国の特別機関として日本学術会議法に定められた日本学術会議の独立性を保障していただきたい。

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会